

丹沢 新茅の沢

日程：2008年6月28日

メンバー：L野澤、斉藤（記）

「速攻」「快適」に丹沢の沢を楽しむ事が出来、私のような初心者には、気持ち良く一汗流せる手頃な沢でした。

行程：新茅荘前駐車場 9:40～9:45 新萱橋下より入渓～11:50 終了点 12:05 烏尾尾根下降 12:50 駐車場

新茅荘前の駐車場にかなりゆっくりとした9時に集合。準備を整え、9時40分出発。戸沢へと続く林道を少し登るとまもなく新萱橋に着く。「新茅の沢」の看板に、すぐここだ、気付く。橋を越えた谷側の踏み跡より入渓する。沢に下りると、その付近は、曇り空のせいもあり暗い雰囲気だ。遡行し始め小滝をいくつか越えるとすぐにF1へと着く。右岸の凹角を登る。体の温まる前の水しぶきは大変冷たく感じる。まもなくF2 7mが現れ「どこから登ればいいのか。」と思わず立ち止まる。当然のように野澤さんにリードをおまかせする。野澤さんに引き続き不安気味の登攀開始、ランニングにそって右岸をシャワーをあびながら登ると、落ち口、手前でホールドが乏しくなり、水流にホールドを求め何とかクリア。続いてF3、F4と階段状に登る。少しゴー口帯を歩くとこの沢のクライマックス F5 大棚の12mが姿を現す。僅かに確認する事の出来る、残置スリングによりルートを確認する。左岸の流れに沿って中央に寄りながら登るようだが、中間過ぎのややかぶり気味の部分が核心のようだ。トップを行く野澤さんのビレイをし、ほどなくし、ホイッスルの合図にて、私の登る番に。水しぶきを浴びながら核心へ到着、岩が滑っているうえに傾斜が立っている為、次の左足がどうしても出せない。残置スリングをアブミにし、A0にてやっとで次のホールドに手を伸ばす。セカンドの強みで「エイッ」と越える事が出来たが、私には、リー

ドで登る自信は持てなかった。無事、大棚をこえたという事で、少しひらけた場所に出た所で休憩をとる。緊張したせいか、喉がカラカラでポカリスウェットが大変おいしく感じる。そこからは、小滝が続く。小振りだが、スダレ状で美しい滝が多い。深くは無いがV字状の地形の為、ガレの詰まった所が多くなっていく。石積みの古い堰堤を越えると流れが一旦伏せる。時折現れる小滝に水の流れが見られるが、じょじょにその流れも細くなっていく。暫くするとチョックストーンの涸滝に前方を塞がれる。私が「巻きましょうか？」と言ったが、野澤さんは「よし、俺が行こう。」と野澤さんがチョックストーンに立ち向かう。中央のチムニーに体を横に滑り込ませ、背中にテンションをかけ、ズルズルと岩の上へと消えていった。それを見本に後に続く。そこからは、ルンゼの中を落石に注意しながら進む。じょじょに空が近づき最後のガレ場が見える辺りで、右へと折れる微かな踏み跡を行くと、すぐに烏尾尾根の登山道へと出る事が出来た。下山準備を整え、行動食をほおばると即、下山へと向かった。45分程で駐車場に着く事が出来、「えっ、もう駐車場！」と少し驚いた。トータルで3時間程の山行ではあったが、そのわりには、内容の詰まった感じのする沢だったと思う。厳しく達成感のある山行も良いが、たまには、こんな山行も良いものだ。折角こんなに近くに丹沢があるのだから、今シーズンは丹沢の沢を沢山楽しみたいと思います。